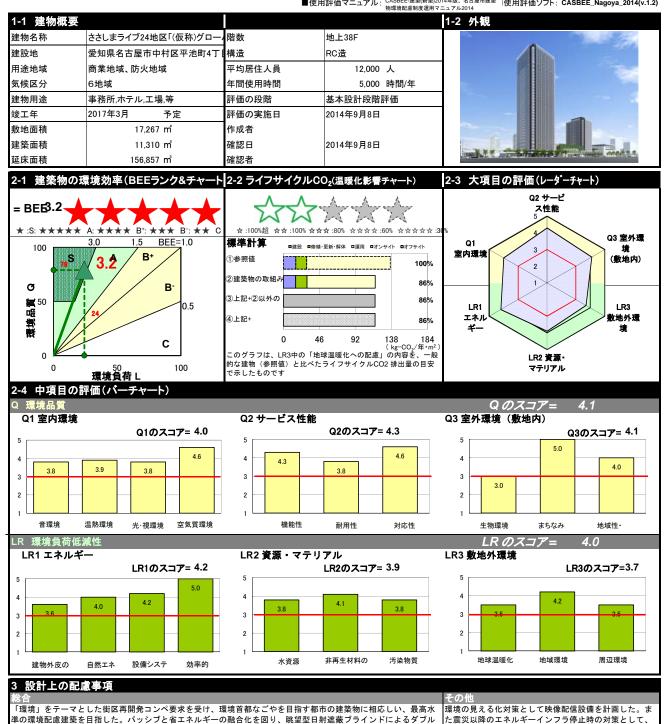
26 65 xls 結果

CASBEE 名古屋

▮評価結果

®(新築)2014年版、名古屋市建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.2



準の環境配慮建築を目指した。パッシブと省エネルギーの融合化を図り、眺望型日射遮蔽ブラインドによるダブルスキン効果と、外気冷房が容易にできる多機能省エネPC外装(ピラスター)等種々の計画とした。 た震災以降のエネルギーインフラ停止時の対策として、 備蓄倉庫の設置、48時間の非常用発電機の実施を計画し ブラインド、カーテンウォールと一体型のエアバリア方 O A コンセント容量50 V A / m2、天井高2.8m等のオ 低層棟は大規模な壁面緑化・屋上緑化・屋上農園や、太 フィスサービス機能を計画した。また、維持管理の高度 式により温熱環境を配慮した。F☆☆☆☆の採用、必要 陽光発電・太陽熱利用設備、ミスト等により環境視認性 各構成部品・部材の長寿命化、更新性・信頼性向上 を高めた。アトリウム・オープンエアプラザ・屋上農 十分な換気量、取入口配慮等を計画した。 ゆとりある空間を確保した 水盤等で敷地内温熱環境を向上し 建物の断熱性能を確保すると共に設備システムの高効率 雨水および工業用水利用による雑用水利用により省資源 屋上緑化・壁面緑化等により、温熱環境の改善CO2排出 化を図る。部材の再生利用に配慮し非再生資源を削減す 化により消費エネルギーの低減を図る。また、エネル 率を低減し温暖化防止対応を実施する。地域冷暖房の採 用による大気汚染防止、低騒音、低振動を図った。雨水流出抑制、交通渋滞防止、風害・日照障害・光害抑制の ギー管理の実施により、各種エネルギー消費量を低減す る。有害物質を含まない材料使用を推進しフロン・ハロ ン使用を回避した。 対策により周辺環境への配慮を実施した

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される